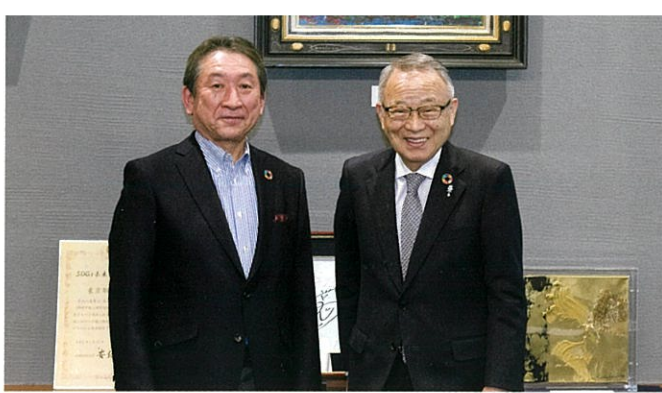


新春特別対談

祝！豊島区90周年 100周年に向けて

『ウォーカブルなまちづくり』への期待
『輝く未来 開こうとしま新時代』

高野之夫（豊島区長） &
合場直人（株式会社サンシャインシティ代表取締役社長）



合場直人さん (株)サンシャインシティ代表取締役社長
1977年 三菱地所(株)入社
学生時代はラグビー部と応援団。
2018年6月より現職

高野之夫さん
豊島区長 家業の古書店経営の後、
区議、都議を経て1999年から現職。

高野区長：今年豊島区が昭和7年（1932）に誕生してから90周年になります。この90周年は100周年に向けた新たなスタートとして位置づけ「輝く未来 開こうとしま新時代」をキャッチフレーズにしました。

私が区長に就任した第1期目は平成11年（1999）、当時は財政破綻寸前の危機的状況であり、非常に苦しい区政運営を強いられました。区制70周年にあたる平成14年（2002）は、記念事業を行うような財政的な裏付けが全くできなかった。それでお金を使わなくても区民の皆さんと一緒に地域活動で豊島区を盛り上げようと「文化の

まちづくり」を掲げました。当時池袋西口公園に常設ステージができたのは、区民有志の方々からの寄附によるものです。その後、区民サービスを見直し、出張所をなくし、職員給与の削減や退職不補充の減員まで行って苦節10年、ようやく財政健全化の目的が立ちはじめ、新庁舎建設計画を決定し進められることができたのが80周年の平成24年（2012）でした。この年11月に80周年記念事業として、世界保健機関（WHO）が推奨する安全・安心まちづくりの国際認証制度「セーフコミュニティ」を東京で初めて取得しました。

いよいよこれから前進の時代と思ったその矢先、平成26年（2014）にあの「消滅可能性都市」の指摘です。少子高齢化と人口減少への警鐘で「30年後には豊島区がなくなりそうですよ」というセンサーシヨナルなニュースになりました。また大ピンチかと思われましたが、豊島区は、区民との協働で文化のまちづくりを加速させ「国際アート・カルチャー都市」構想によって、これを躍進のチャンス

合場社長：豊島区は、よくぞここまで「文化」を軸に都市の将来像を作り上げてきたな」という都市経営に対する高い評価が定着してきていると感じています。

「文化」というテーマはいいですね。調子のいい時も悪い時も、人が動くことによって次に繋がり、継続して取り組むことができます。サンシャインシティは今年の10月で開業して44年になります。ご承知のように、1950年代高度経済成長期に首都圏への人口、産業の集中が起き、その都市問題解決を目指して策定された新宿・渋谷と並ぶ「池袋副都心再開発構想」がもとになっています。日本初の複合都市施設、日本一高い超高層ビルとして全国に名前が伝わり、一見、その歩みは順調そうに見えますが、70年代の建設工事開始直後にオイルショック、開業期は経済不況の真っ只中で、経営の実情は大変なものでした。そのなかでターミナル駅から800m離れている新施設にお客様の足を向かわせる工夫と努力はいかばかりであったか、と想像します。開業以降

長い間、借金を返すことに費やされたのです。それでもその後、「サンシャイン60通り」にお客様が多く歩いていらっしゃるようになったのは、地域の皆さんが「サンシャイン」という言葉を良く使っていたら、サンシャインシティの存在について信頼と価値を感じてくださったからだと思います。私たちグループのスローガンは『なんか面白いこと、その創造力を街の力に』です。ピンチをチャンスに変えるのも、豊島区と同じく地元、皆さんとの協働にあると考えています。

高野：豊島区の80周年から90周年にかけての10年間で、企業が豊島区の成長と価値に期待する兆しが見えてきたと感じています。今年の新春賀詞交換では区立芸術文化劇場（東京建物 Brilia Hall）2階を全部企業の方の参加席にしましたら満席となりました。以前とは違う注目度の勢いを感じました。

この間、「公民連携」の新しい形を積極的に働きかけたこともある



に変えたのです。この80周年から90周年の期間は、東アジア文化都市2019を開催し、23もの大規模なまちづくりプロジェクトが完成し、豊島区の百年に一度の変化が大きく感じられる10年になりました。90周年は次の100周年に向けて、夢が実現するスタートになる節目の年と考えています。

創業60周年 実績と信頼

不動産売買



音羽 おとわ

☎03-3957-5757

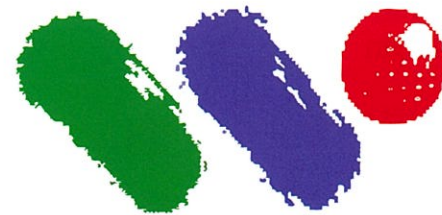
豊島区千早1-20-13-502
http://www.otowa-gr.co.jp



神楽坂Mビル

おかげさまで創業95年

新築 リフォーム
まかせて安心



渡辺建設株式会社

www.watanabe-kensetsu.co.jp

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-22-16 TEL 03-3951-1161



(持続可能な社会の実現)ですね。サンシャインシティは池袋のまちとともに成長する企業、池袋の成長になくてはならない企業にこれからはなっていきたいと思っています。

高野：御社にはこれまでもそうですが、さらに2020年から「まちづくり推進部」を設けていただき、さまざまな交流のなかで豊島区の公民連携の推進役を担っていただいています。

ついで最近、私は幹部職員全員に新年区長講話を行ったんです。伝えたことは三つです。

①スピード感を持って仕事にあたろう。②これはダメ、あれはダメ



と思いますが、2015年に池袋が特定都市再生緊急整備地域の指定を受けたことも大きく影響していると思います。これまでは何回も東京都に申請しても「池袋はまだ熟度が足りない」という表現で何年もはね返されてきましたが、新庁舎移転以来の池袋東口の再開発の展開に加え、いよいよ池袋西口駅前再開発も始まります。池袋の都市再生の仕上げがスタートするのです。この池袋西口駅前再開発は事業協力者として三菱地所グループが地元の権利者と一緒に全体像を描きつつありますね。私は、東口の再開発以降の展開のように、西口も駅前の変化だけではなく、再開発によって西口エリア全体が良くなる、まちが動き出すきっかけにしたいと思っています。

合場：私は前職の三菱地所時代には、主要地方都市のニュータウン開発、横浜ランドマークタワーとみなどみらい21地区の開発、大手町・丸の内・有楽町エリアの「大丸有」再構築などに携わってきました。池袋は副都心のなかで新宿、渋谷に比べて遅れをとって…などと言われますが、これは今と違っては逆にものごいアドバンテージだと思っています。

かつてのまちづくりは、人口数やインフラの配置、社会形成要素から導き出す都市工学の発想によるものでした。今は都市経営の発想が大切になっています。必要なものがある「正しい街」もイイけど、良い劇場や素敵な公園がある「良い街」の方がイイね、さらにそれよりもっとみんなが「好きな街」になるのがイイね、この「好きな街」の高みを目指そうよ、という考え方は、大丸有地区は民間ダイベロツ

パーが中心となり地権者である企業と協議を重ねてまとめた将来像を公と共有し、実現のためのルールや手法を公民連携で定める「ロビー（パブリックプライベートパートナーシップ）」のモデルとされています。一方、池袋はどのような民間デベロッパーが推進役になるのではなく、豊島区自身が推進役となって、行政と区民と民間企業が一緒に考え、提案し、動いていく、これまででない公民連携の新しい成功モデルができるのではないかと期待しています。

合場：そうですね。「歩きたくなるまち」はまさに自分にとって「好きな街」になりますね。これから生き続けるまちには、多くの人が参加し、自分がつくったと思えるまちだと思っています。区長のお話を聞いて、それが「池袋らしさ」なのかもしれないと思えるようになりました。

近年は利潤追求のみを目的とするのではなく、社会課題の解決をビジネスに、という企業も増えてきています。公と民は、手法は違っても目指すものは同じ、それがSDGs

メではなく、どうすればできるかを考えよう。③見逃しの三振はするな、思い切つて振れ、時には長嶋茂雄選手のようにボール球をホームランにする気持ちでやろう。」

なんだか民間企業みたいでしょう。区職員は民間の方々と気持ち合わせて、かみあう姿勢が大切です。豊島区100周年に向けて、区民と企業と行政が一体となるプラットフォームのような体制を作つて取り組みたいと考えています。

合場：歩きたくなるまち「ウォーカーブルなまちづくり」のこれからが楽しみです。私たちも一緒になってチャレンジします。池袋だけでなく、豊島区中のまちが「歩きたくなるまち」を目指すのもいいですね。豊島区が区制90周年を記念して「ウォーカーブル都市宣言」をする、なんていうのはいかがですか。

高野：いいですね。一緒にまちを歩きましょう！

(令和4年2月10日
豊島区役所区長応接室にて)





2022年2月
新春号
No.119

特集
祝！豊島区90周年

100周年に向けて
『ウォーカブルなまちづくり』へ



好評連載

- 池袋疾走日記 古市コータロー ●トキワ荘のある街から
- みんなの選択 ~新しい「無印」の魅力に会える MUJlcom 東池袋 オープン!
- 豊島区の文化的遺産としての「新教育」運動 ●街のこころ大塚ものがたり

●としま共創トーク 新春特別対談
高野 之夫さん(豊島区長) & 合場 直人さん(株式会社サンシャインシティ代表取締役社長)

●雑司ヶ谷物語 ●令和4年第一回豊島区議会区長招集挨拶

豊島の選択
「豊島の選択」題字：粕谷一希

「とっぴい」創刊5周年 2022 No.119

令和4年2月20日発行(隔月発行) 第11巻6号(通巻119号)
発行人・小林俊史 発行・創刊社としま 〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-29-11フナーズビル5階

定価800円 本体728円

alpa 3F



INTERIOR ART by FACE

Sunshine City SOLARIUM

Sunshine City SOLARIUM

NEW COMMUNITY LOUNGE

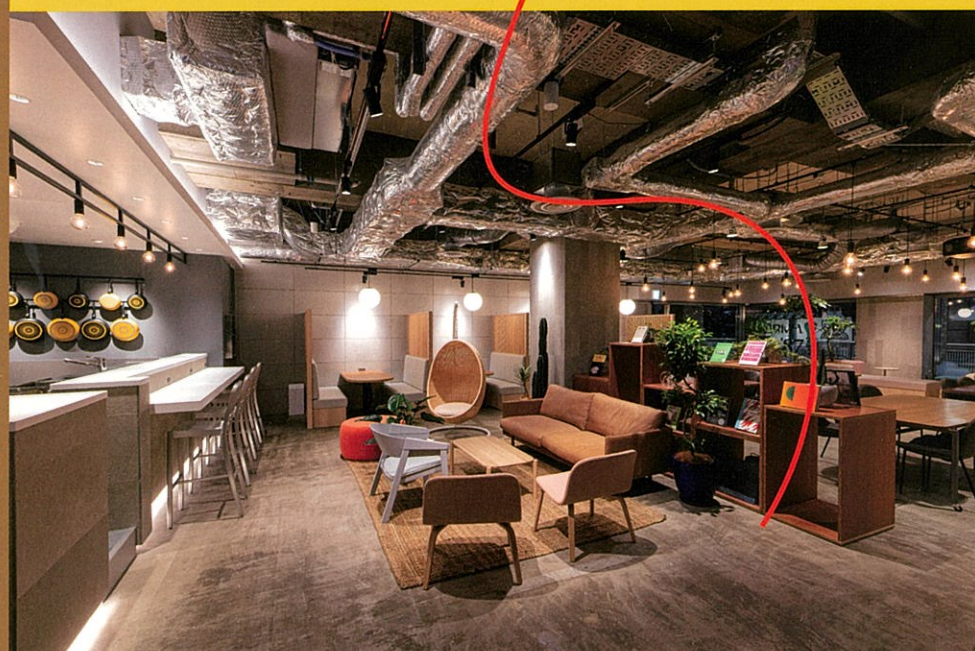


CAFE & FOOD

BYRON BAY
coffee
COMPANY
EST.2009 Open: 9:00 am Close: 6:00 pm



密着屋台村
HITO STALL VILLAGE
Open: 11:00 am Close: 2:30 pm(平日)



SOLARIUM WEB SITE



サンシャインシティアルパ3F

“ヒトとヒト”や“ヒトとコト”をつなぐ場所

コミュニティラウンジ「ソラリウム」

◀詳しくはウェブサイトをご覧ください。

2022年1月15日(土)より
土・日・祝も営業開始!



サンシャインシティ
公式サイト

※記載内容が変更になる場合もございます。予めご了承ください。※画像はすべてイメージです。

●池袋駅から徒歩約8分 東池袋駅(東京メトロ有楽町線)から徒歩約3分 ●総合案内 ☎03(3989)3331 (サンシャインシティ) 検索

雑誌 89609-02
2022 Printed in Japan



なんか面白いこと、ある。
Sunshine City

4910896090220
00728